

万協フロー T | Aタイプ 施工要領書

1.はじめに

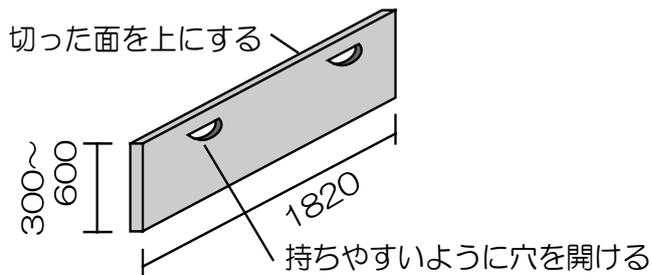
このたびは弊社二重床をご採用いただきありがとうございます。
製品の特徴を十分に生かし、安全で美しい仕上がりに施工して頂くために
本書をよく読み、正しくお取り扱いいただきますようお願いいたします。

2.施工工具一覧

- 電動ノコギリ（丸ノコ）
- ドライバー（+）
- インパクトドライバー（ビス留めの場合）
- 釘打機（コンプレッサー）（釘留めの場合）
- 水平器
- 水糸
- レーザー水平器
- スケール
- カッター
- 定規（下図参照）※1
- すきまゲージ（下図参照）※2
- ほうき
- ちりとり
- スクレイパー
- ドリル（ $\phi 30\sim 33$ ）

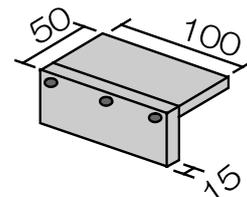
※1 定規

床の水平レベルを調整するために使用します。
パーティクルボードを半分に切って作ります。



※2 すきまゲージ

厚さ 15mm の合板または木材で 4 個
以上作ります。



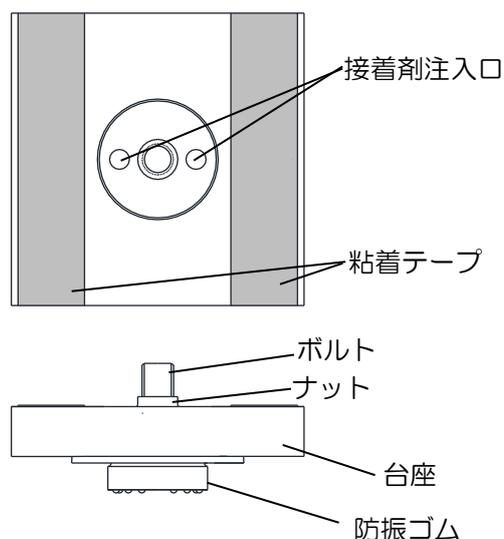
3. 製品仕様

① パーティクルボード（以下、床パネルとする）

（厚さ）20mm×（幅）600mm×（長さ）1820mm

- 注意** 万協フローア指定の床パネルをご使用ください。
床パネルは濡らさないでください。
直射日光の当たる場所に長時間放置しないでください。

② 支持脚（T I A型）

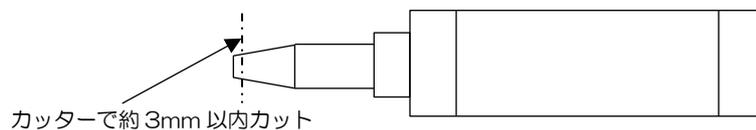


T I A-50
（適応床高：45～55mm）

- 注意** 支持脚の床高調整は、適応床高より低くすることもできますが、床下に厚25mmのグラスウールを入れるため、グラスウールの厚みで支持脚が浮く可能性がありますので、最低床高45mm(床パネル天端)を順守して施工してください。

③ 接着剤

中ブタを取り、ノズルの先端から約3mm以内をカッターで切ってください。



冬季など低温度・低湿度のときは硬化しにくい場合があります。

- 注意** 万協フローア指定の接着剤をご使用ください。
- 注意** 使用の際は換気をよくしてください。
誤って目に入れたり、飲み込んだ場合、直ちに医師の診断を受けてください。
- 注意** 標準入数の半数以下のご注文の場合、同梱されませんので接着剤を別途購入してください。



④グラスウール（万協フローア指定のものをご使用下さい。）

（厚さ）25mm×（幅）910mm×（長さ）22m

密度 24kg/m³

⑤ビスおよび釘（別売 市販品）

床パネルと支持脚の固定には、ビスまたは釘を使用します。

[床パネル固定用]

コーススレッド半ねじフレキ付 約(φ)3.8×32mm	スクリューネイル 約(φ)2.0×32mm
--------------------------------	--------------------------

[合板固定用]

合板(mm)	コーススレッド (mm)	スクリューネイル (mm)
厚 9	25	25
厚12	25	32
厚15	32	32

⑥合板（必要な場合のみ）

（厚さ）12mm×（幅）910mm×（長さ）1820mm

必要な場合

- ・ムクフローリング仕上げ
- ・直貼フローリング仕上げ
- ・カーペット仕上げ
- ・ビニル系床仕上げ
- ・タイル貼り仕上げ、石貼り仕上げ（支持脚間隔が通常とは異なります。詳細についてはお問い合わせください。）
- ・床暖房仕様

不要な場合

- ・（厚）12mm×（幅）140mm×（長さ）900mm以上のフローリング仕上げ
- ・たたみ仕上げ（厚40mm以上）

4. 施工手順

4.1 施工を始める前に

- ・スラブ面にゴミがないように清掃します。
- ・床の不陸が支持脚の調整範囲内であることを確認します。
- ・床高に合った支持脚であるか確認します。
- ・床パネルの枚数を確認します。
- ・フローリングの方向を確認します。(床パネルを張る方向はフローリングと直交にする。)

注意 床先行工法の場合、間仕切壁の位置を確認し、床パネルの目地と間仕切りの位置が合わないよう床パネルを割り付けてください。

ランナーは、床パネルに固定してください。

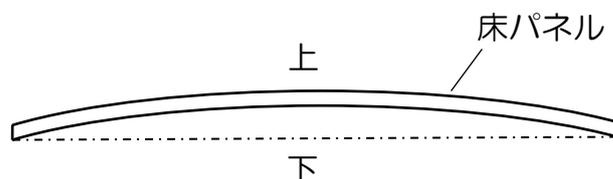
床パネルの目地にビスがあたると、床鳴りの原因となります。

注意 スラブが濡れている場所、水たまりがある場所は、乾かしてから施工してください。

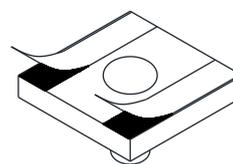
4.2 床パネルの敷設

①床パネルの反りを見ます。

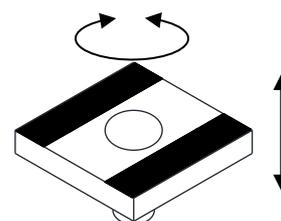
床パネルに反りがある場合、ふくらんでいる面が上になる様に施工します。



②支持脚の粘着テープの剥離紙をはがします。



③台座を廻し支持脚を適切な高さに調整します。



台座を廻すと高さが調整できます。

④壁際の施工

施工方法は支持脚受けになります。

壁際の支持脚は約300mmピッチで床パネルに取り付けていきます。

(床パネルの短辺は約308mm以内、長辺は約306mm以内ピッチ。)

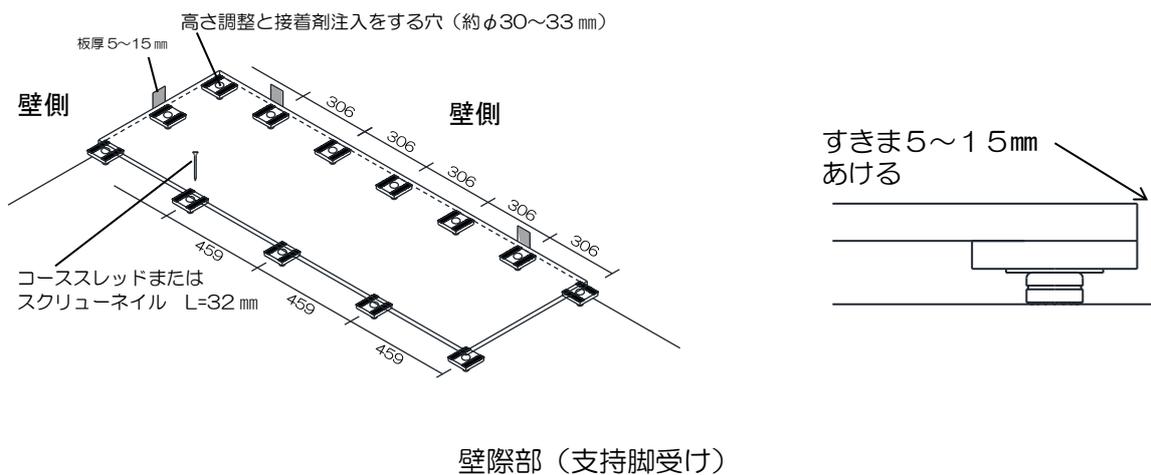
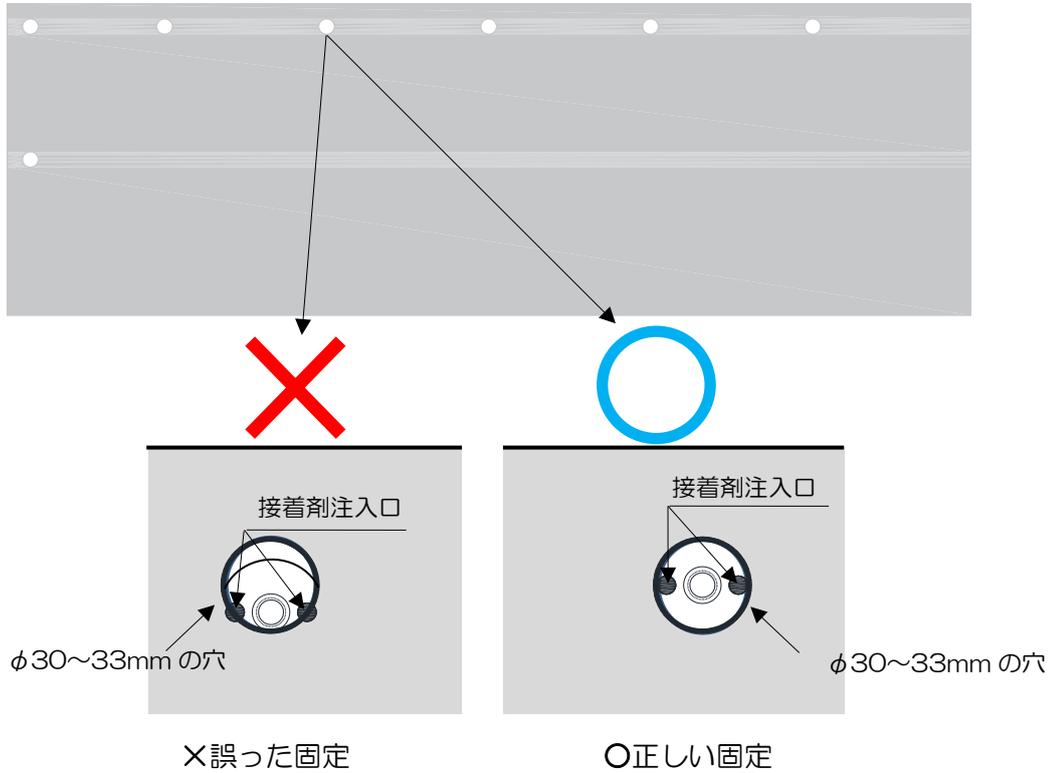
床端部に支持脚を取り付ける際に、レベル調整及び接着剤注入用の穴

(約φ30~33mm)をあけます。

⑤一般部の施工

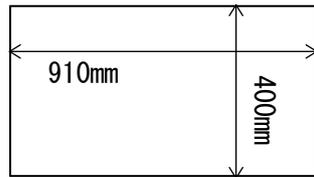
約459mmピッチで床パネルの側面と台座テープが直交する向きで貼り付けます。

注意 壁際の支持脚を固定する場合、 $\phi 30\sim 33\text{mm}$ の穴に対して、TIA-50 の接着剤注入口 2 箇所がパーチに隠れないように（接着剤注入が可能となる状態）ビスまたは釘で固定してください。



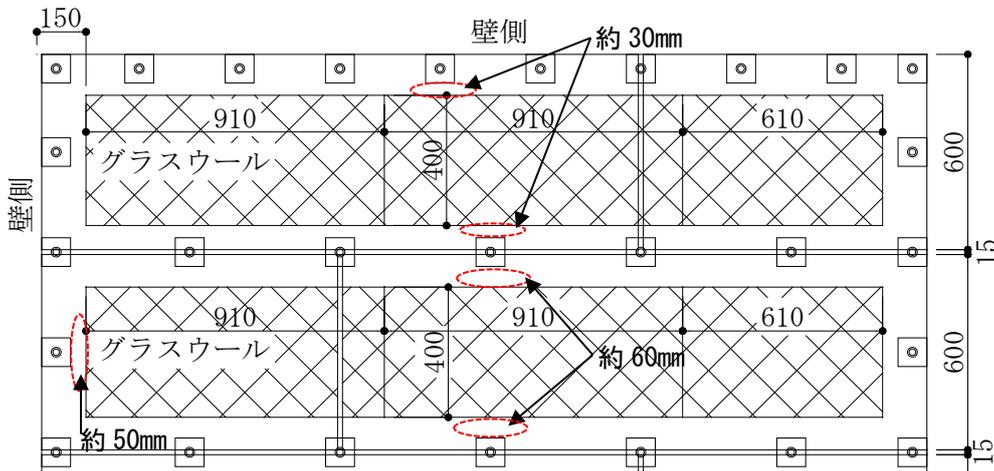
壁際部（支持脚受け）

⑥グラスウールの施工



標準サイズ

22m(ロール)のグラスウールを標準サイズ 400mm×910mm にカットして敷き詰めてください。グラスウールは床パネルの中央に配置して周囲の台座と接触しないように、必ずすきまを取って、床パネルと同時に施工します。また、床パネル幅が細くなれば400mm方向のグラスウールをカットして周囲の台座に接触しない寸法にしてください。但し、グラスウール最小寸法は100mm幅で、台座とのすきまが左右30mm取れない場合は、グラスウールを敷き詰める必要はありません。



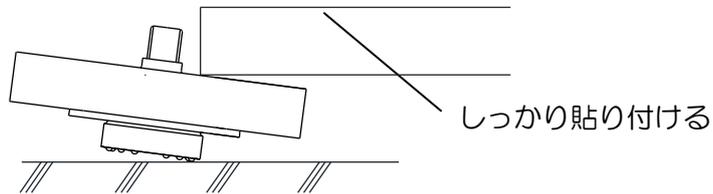
- 注意** グラスウールを敷き込む時に支持脚の台座部とグラスウールが接触しないようにする。
 ○位置に注意。最低床高の場合、グラスウールに台座が載ると支持脚が浮いてしまうことがあるので、必ず台座とグラスウールのすきまを取るようにグラスウールを配置します。(短辺方向は、壁側から150mm、長辺方向は、支持脚の台座部から約30~60mm程度の距離をとる)

よい例		わるい例

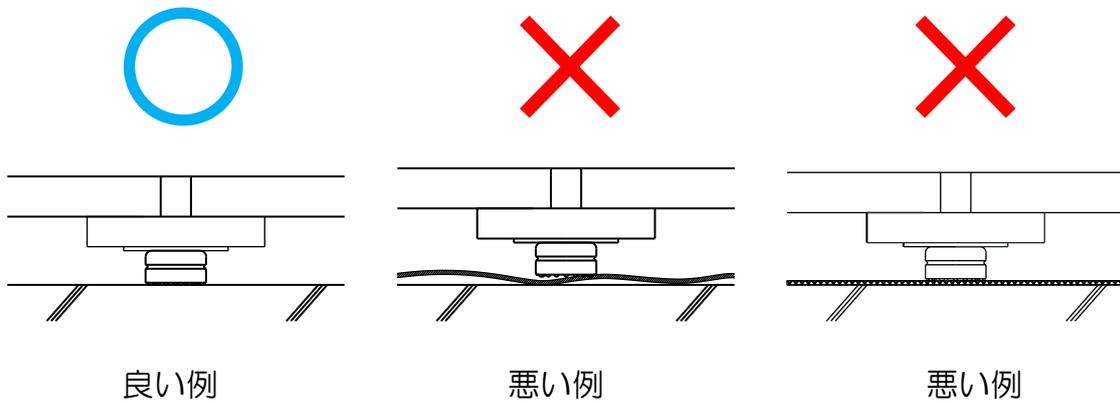
注意 床パネル長辺に対して台座ブチルテープ面が直交となり、目地部に接着剤注入口2箇所が見える

ように固定する。

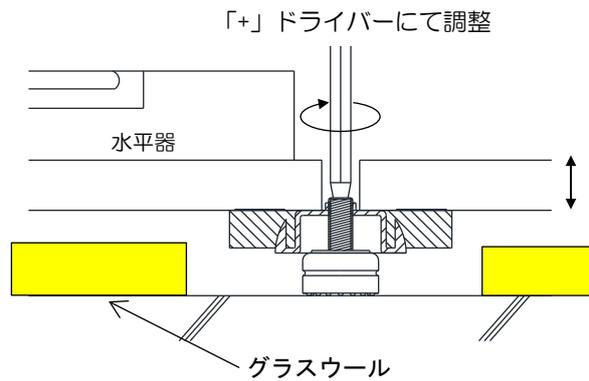
注意 支持脚は床パネルにしっかり貼り付けてください。
浮いていると床鳴りの原因になります。



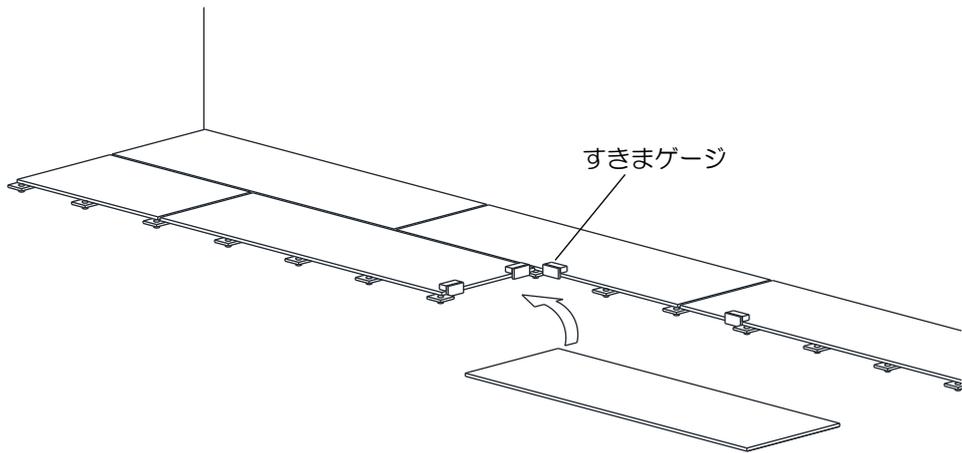
注意 支持脚の下には、物をはさまないでください。
床鳴りの原因になることがあります。
支持脚は、直接スラブに接するようにします。



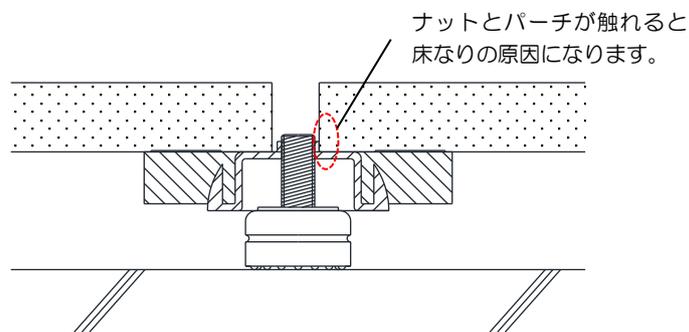
⑦床パネルを1列張るごとに、水平器またはレーザー水平器で床パネルを水平にします。



⑧床パネル同士のすきま（以下「目地」という）は約15mmあけます。
このとき、すきまゲージを使用すると、早く正確に施工できます。

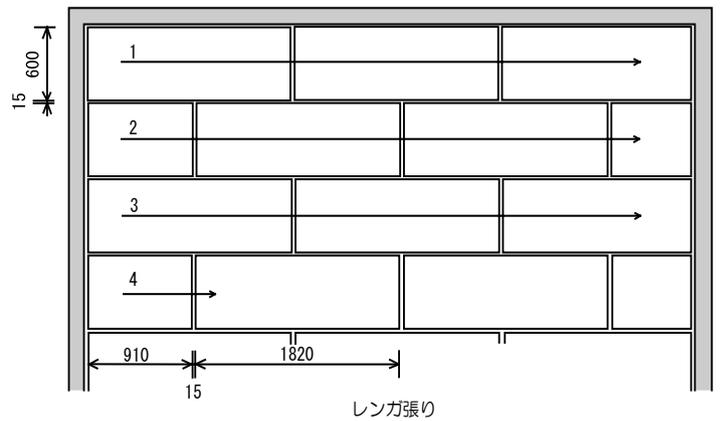


注意 床パネルとナットが触れないようにしてください。



床パネルを張る順番は、右図（矢印）の通りです。張り方はレンガ張りです。

注意 張り仕舞いで、床パネルの幅が200mm以下になる場合、前の列の床パネルの幅を細くするなどして、床パネルの幅が200mmより細くならないようにしてください。

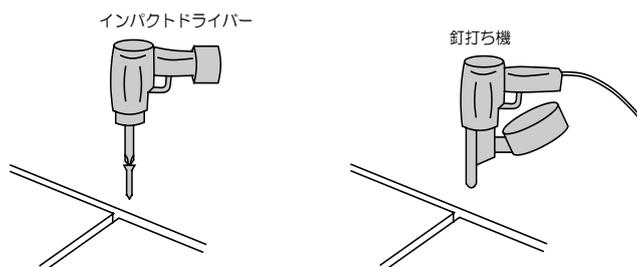


注意 床パネルの表裏面に、ノコギリの切れ目などのキズのあるものは、使用しないでください。

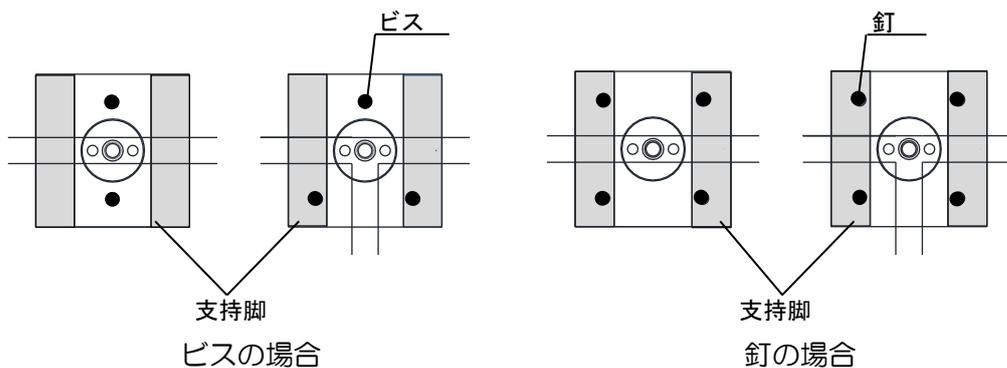
4.3 床パネル固定

床パネル上からビスまたは釘を打ち支持脚と床パネルを固定します。

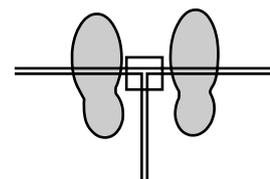
コーススレッドまたはスクリーネイルは（長さ）**32mm**を使用します。



支持脚のビス・釘固定は下図の箇所です。



釘打ちの場合は、支持脚に均等に体重をかけて固定します。



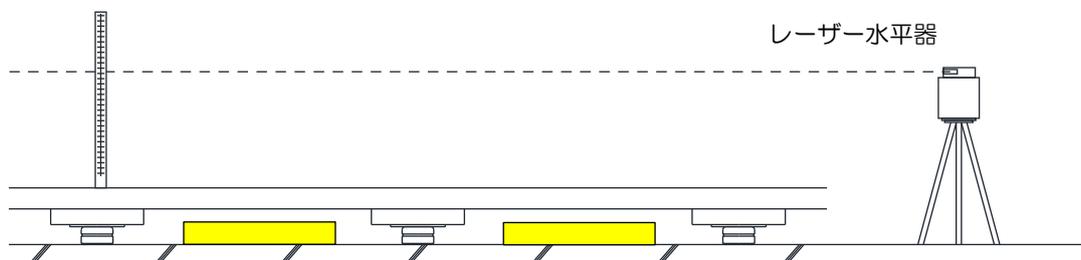
注意 TIA-50 は、ナットの金属部分が大きいので、ビスまたは釘が金属に触れないように固定してください。

4.4 レベル再調整

レーザー水平器の場合

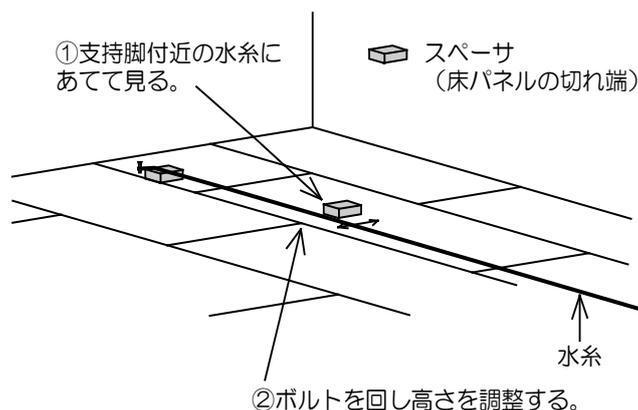
レーザー水平器を設置します。

かね尺等を支持脚上に立て、ドライバーでボルトを廻し、同じ位置にレーザーがあたるように高さを調整します。



水系・定規の場合

3列おきに水系を張り、床パネル長辺方向のレベルを調整します。

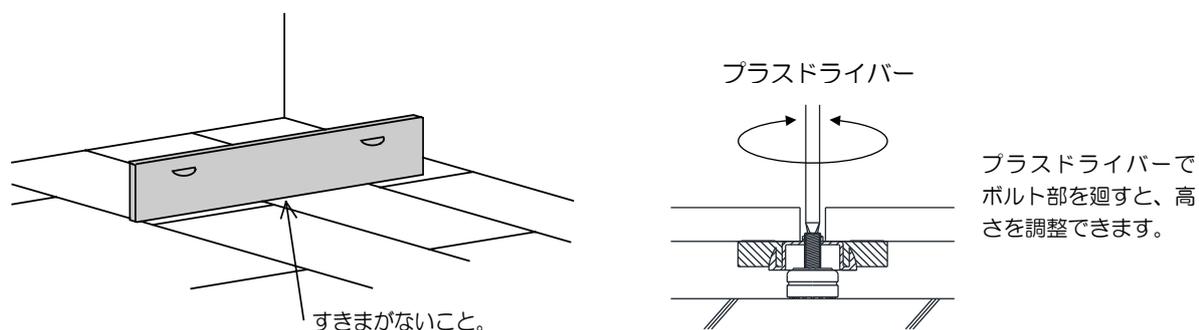


水糸は床パネルの切れ端（以下「スペース」という）を挟んで強く張ります。

このとき、スペースは同じ高さになるように使用します。

別のスペースを水糸と床パネルの間に置き、スペースと水糸が軽く触れる高さに支持脚を調整します。

床パネル短辺方向のレベルを調整は、定規を下図のように置いて、すきまが出来ないように調整します。

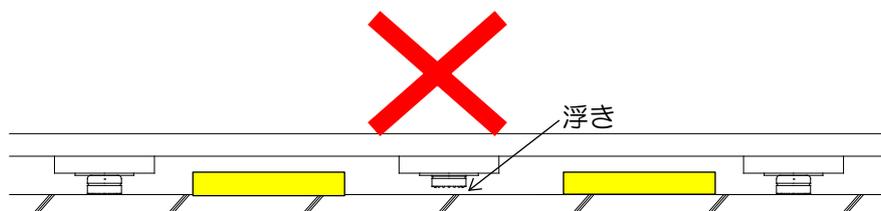


4.5 床全体のレベル点検

床のレベル調整がすべて終わったら床全体を歩いて、支持脚の「浮き」が無いか確認します。

浮いている箇所は、支持脚がスラブに付くまで、ボルトを廻します。

このとき、床パネルの水平を保つようにしてください。



支持脚の上を歩いて、他よりやわらかく感じたら、浮いている可能性があります。また、支持脚固定のビス、スクリーネイルの打ち忘れも同時に確認してください。

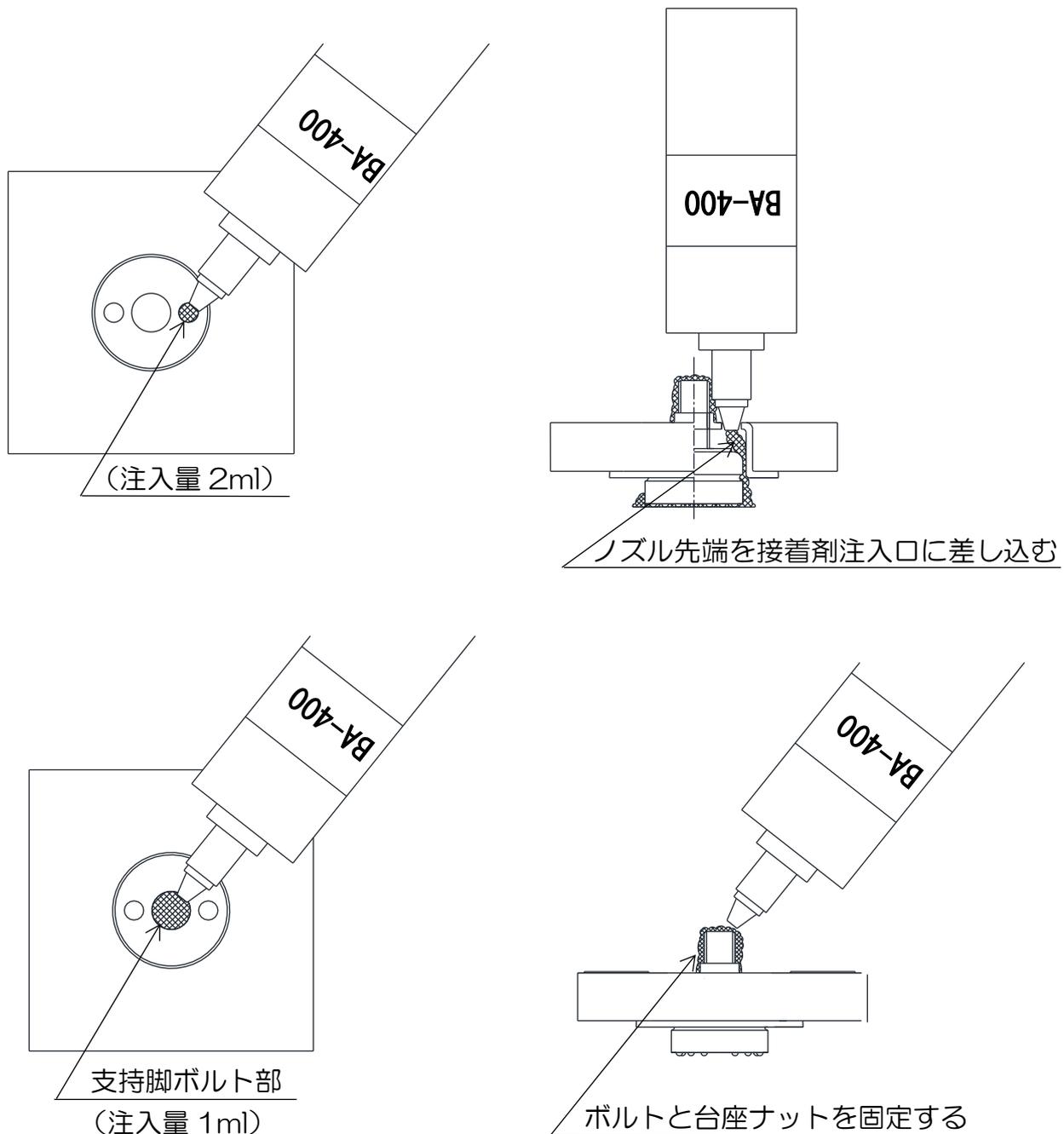
4.6 接着剤の注入

すべての支持脚に接着剤を注入します。

支持脚ボルト部と接着剤注入口に接着剤を注入します。

接着剤注入口に木くずなどゴミがある場合には必ず取り除いてから、接着剤注入口に接着剤を注入してください。

接着剤により、「スラブと防振ゴム」および「ボルトと台座ナット」を固定します。



接着剤が硬化するには、1～2日くらいかかります。この間、床上に重量物を置いたり、歩いたりしないでください。

注入量の目安は、支持脚 1 本あたりボルト固定 1ml と接着剤注入口 2ml の合計 3ml です。

4.7 合板（必要な場合のみ）

合板は床パネルと直交するように貼ります。

合板の継ぎ目は床パネルの目地部から、100mm以上離します。

壁際は5～15mmすきまをあけます。（なお、クッションフロア仕上げの場合には、すきまは2mm程度にします。）

ビスまたは釘を使用し、約200mmピッチで留めます。

5. その他

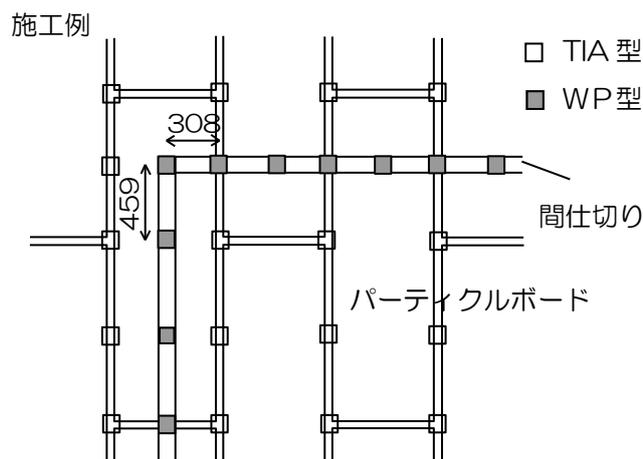
5.1 床先行工法の注意点

間仕切り下は、WP型の支持脚を取り付けます。

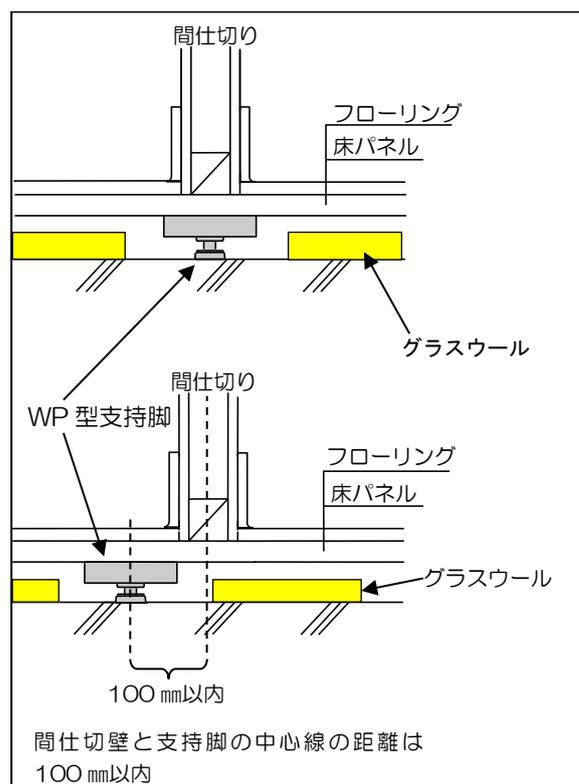
床を作る前に間仕切り位置を確認し、スラブ面に墨を打ちます。(支持脚を取付ける目印。)

支持脚を取付ける間隔は、パーティの短辺方向は約 308mm、長辺方向は約 459mm以内です。

なお、開口部の枠下にも支持脚を入れます。



注意 間仕切り下のWP型の支持脚が入る箇所のグラスウール幅は、グラスウールが左右の台座に接触しないすきま30mmを取るようカットして入れます。(但しグラスウール最小寸法幅は 100mm)



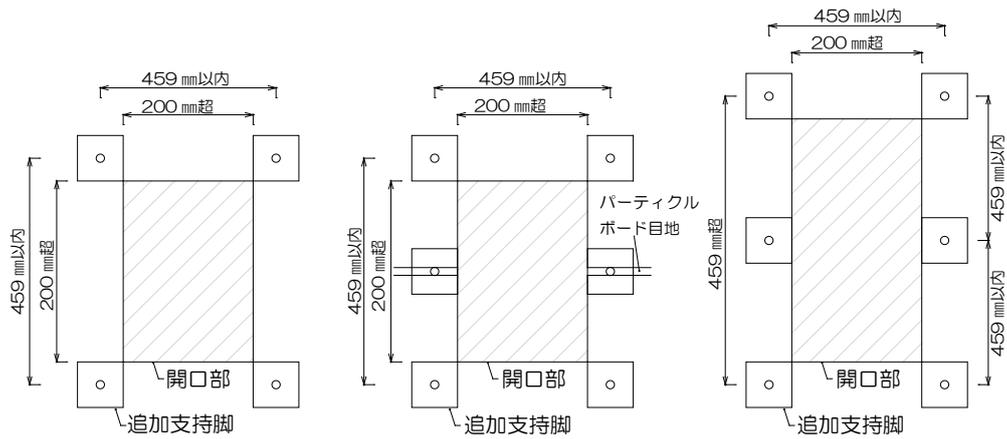
5.2 床に穴をあける場合の処置

床下地に穴をあけると、開口部の大きさによってその箇所の強度が低下することがあります。開口が200mmを超える場合は、以下の条件をもとに下図に示す追加支持脚を入れます。

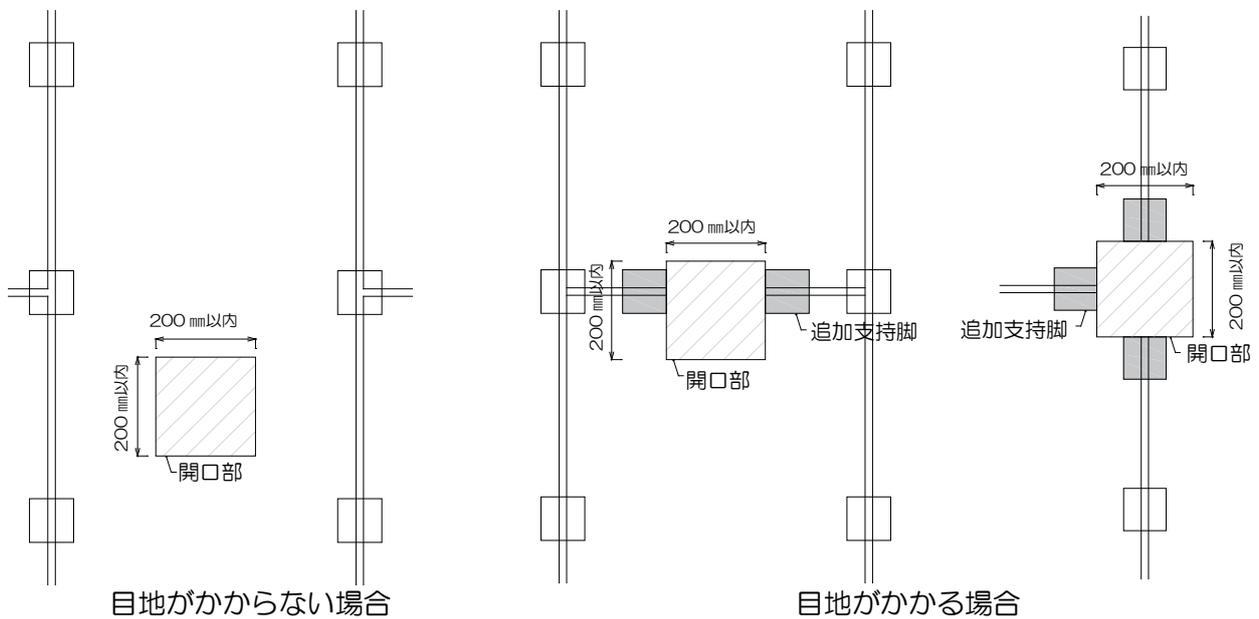
- 開口部の四隅
- パーチの目地部

支持脚の間隔が459mmを超える場合には、中間に支持脚を追加します。

注意 床に開口部を設ける際、丸鋸の切込みが残らないようにしてください。

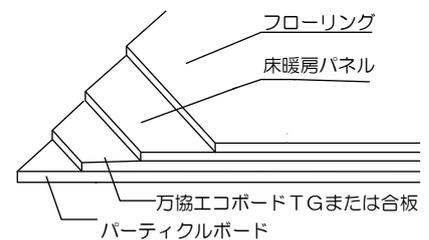


開口部に目地がかかる場合には、開口が200mm以内であっても支持脚を追加してください。



5.3 床暖房について

床暖房パネルと組み合わせることにより、床暖房仕様の床ができます。床暖房を使用する場合は、万協エコボードTGまたは合板（厚12mm推奨）を使用します。仕上げ材は床暖房対応のものを使用します。床暖房パネルの施工方法については、床暖房メーカーにお問い合わせください。



5.4 その他の注意事項

①水を使用する作業

- 二重床の上で、水を使用する作業を行う場合は、必ずビニールシート養生を行ってください。

②資材の仮置き

- 二重床の上に、資材を仮置きする場合は、1ヶ所にまとめず、分散させ、静かに置いてくだ

さい。(目安としては200kg/m²まで)

- まとめて仮置きした場合、床のたわみが戻るまで時間がかかり、仕上げ材の施工に支障が出る恐れがあります。

③その他

- 二重床の上は、搬入経路等で使用しないでください。
- 二重床施工後、床上に強い衝撃を加えないでください。建築資材の落下などにより、パーチが割れる場合があります。
- 風雨にさらされる場所への施工は、避けてください。
- 施工要領書に記載のない施工をおこなう場合は、事前にご相談下さい。
- 事業主様によっては、本施工要領書とは別に規定を設けている場合がありますので、ご確認の上、施工をおこなうようご注意ください。
- スラブから放出される水分が多い場合や漏水等により二重床下の空間で多湿状態（※1）が続くと、床材の反り、突き上げなどの原因になりますのでご注意ください。
- 自然現象・周辺環境等（※2）の不可抗力に起因する結露、腐食、反り、割れ又はその他の不具合による商品の交換等には対応いたしかねます。

（※1）湿度 65%以上になるとカビが生えやすい環境となり、湿度 90%を超えると数日でカビが発生する可能性があります。

（※2）火災・地震・水害・落雷などの天災地変や公害・塩害・ガス害や異常な高温・低温・多湿・過乾燥などの周辺環境

「仕様は予告なく変更することがあります。」